

# 旧満州への旅をして 最終回

市民シンクタンクひと・まち社理事 木下伸子

## 旅の終わりは北京

最後の6月14・15日は北京。定番の故宮、万里の長城、天安門広場などを観光した。北京はスモッグもなくよく晴れてはいたが、6月だというのに38℃という暑さ。長春の偽故宮の6倍のスケールという“本家”の故宮の中を、茹蟻のようになりながら歩いた。ここで、天津の実家に寄って帰るY・C夫妻と別れた。2日目の早朝、万里の長城へは八達嶺からでなく居庸関から上ったが、八達嶺のような混雑がなく静かに景色を楽しめた。午後は繁華街に戻り、お土産などを物色した。数年前は、小さな店がごちゃごちゃと連なるマーケットだったところが、銀座の商店街のようにすっかりきれいに整備されていて、中国の経済の発展ぶりを確認する思いだった。

スモッグのない北京は久しぶりだ。環境改善に力を入れているという政策が功を奏しつつあるのだろうか。それにしても車の数はものすごい。

現地ガイドは大連からのK氏に替わり若い女性のSさん、K氏に比べビジネスライクだ。2日間同じガイドの予定は、幼稚園児の子どもが病気になったが、夫が急な出張でみてもらえなくなったので、と2日目はベテランの女性がピンチヒッターで来た。働く女性の子育てはどこの国も同じだ。

16日の夕方羽田空港に帰って来た。北京を経由したことで、羽田に帰れたことはよかったと思う。

2017年6月11日から16日まで5泊6日の旅はこれにて終了。  
エピローグ

まずは、きわめて私的な旅行記に、貴重な機関紙のページを割いていただいたことに感謝します。今回の旅はプロローグに書いたように、単に郷愁の旅ではなく幼い頃に、戦争に巻き込まれ、もしかしたら3歳で、命を絶たれていたかもしれない、また、残留孤児として「私の名前は？父は？母は？」と泣いていたかもしれないことが、幼心に焼き付いた、緑の平原で見た取り残された無蓋車の上の同胞の姿などが事実であることを確かめたいと出かけた旅でした。もちろん



居庸関からみた長城

居庸関からみた長城  
ん当時の面影は残ってはいないと承知して出かけたのですが、所々で当時の建物や施設が、遺跡として、あるいはま

編集後記:新しくできたバイパス道路を走っていると、大きなみかん山が真ん二つに分かれていた。左の山の中腹には「公共事業とは!？」という手書きの看板が見える。この道路はみかん山の持ち主の反対があり、開通が遅れていたと聞く。麓を見ると畑や民家が広がり、道路整備により地域も分断されている。車での移動は便利になったけれど、それは誰かの犠牲のもとに成り立っていた。公共事業とは、誰のため、何のためかと考えさせられる。せめて時の為政者には国民のためにと、言ってもらいたい。(K)

だ現役で使われているのを見て、私の体験は幻ではないと確認できました。

残念なことに、歴史上の事実を、勝手な解釈をして正当化しようしたり、なかったことにしよう、という動きに危機感を持っている私としては、今回はそういう思いまでお伝えできず残念ですが、自分なりに後世の人に、2度とこんな体験(もっと過酷な体験をした子どもが大勢いますが)をする子どもが出ないように伝えていきたいと思います。

戦後生まれではあるけれど、私の動機に共鳴して同行してくれたMさんが、葫蘆島の丘で、低木の松の葉を5・6本ティッシュに包んで「葫蘆島の松葉ですよ」と渡してくれた時に、共感してくれているのだと胸が熱くなりました。

現地ガイドがついても、ほとんど中国語ができない女性の二人旅は心細いものでしたが、お店を休業して同行してくれた天津出身のY・C夫妻の存在はとでも心強かったです。自撮りカメラを駆使して、新婚旅行のように楽しんでいる夫妻の姿は、無理して同行してくれたのでは?という私の罪悪感を払拭してくれ、いい思い出になりました。

2年がかりで、プラン作りに付き合ってくれたNH旅行社のSさんは、行ったことがないといわれていた葫蘆島まで下見に行ってくれたそうで、そのことを、現地ガイドのM氏に聞いたときは感動しました。

季節の果物を持って来たり、古い地図などを見つけてきてくれた現地ガイドのM氏、T氏のおもてなしも嬉しいことでした。

今回の旅がいろいろな人の好意・善意で実現したことに感謝しつつ、元気であればまた、今度はもう少しゆっくり滞在してみたいと思っています。

拙文を最後までお読みいただきありがとうございました。中国風に謝々

第17回総会を3月23日に終了いたしました。

2017年度のひと・まち社は、皆様方の会費とご寄付に加え、日本郵便年賀寄附金助成を得て、調査研究を継続し成果を発表することができました。

来年度も調査研究を進めてまいります。重ねてのご寄付を募ります。どうぞよろしくお願いたします。

2017年度 活動計算書 (1/1~12/31) (単位:円)

科 目	金 額	
受取会費	422,000	
受取寄付金	901,100	
受取助成金	450,000	
第三者評価	8,837,640	
調査・研究(情報発信)等	48,000	
活動サポート・人材育成	105,000	
その他	365,312	11,129,052
人件費	3,650,842	
委託費	2,764,275	
旅費交通費	811,812	
通信運搬費	409,140	
消耗品・事務用品費	72,054	
印刷・広報費	502,472	
家賃・水道光熱費	1,472,452	
研修・図書費	53,600	
租税公課	214,630	
雑費	159,525	10,110,802
人件費	475,228	
その他	884,143	1,359,371
当期正味財産増減額		-341,121
前期繰越正味財産		528,867
次期繰越正味財産		187,746